



FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org



**世界への
プレゼントになろう**

会長：森下 敏顯 副会長：鈴木 舜光 幹事：大長 昭子 副幹事：島村 武慶
第2127回 ●ソング 国歌・奉仕の理想
 ●ソングリーダー 大塚 高弘君

【富士山】
写真提供：櫻井 龍太郎

会長報告

森下 敏顯君

皆さん、こんにちは、本日は結婚記念日のお祝いという事で、江崎会員、小西会員、松葉会員の奥様方に出でいただきました。ようこそいらっしゃいました、どうか例会を楽しんでいって下さい。

先週は例会後に駅南のホテルオーレの内覧会のご招待が当クラブ宛てにありましたので、10名程で見学させていただきました。

市長さん始め、市内の各団体の役員の方々が多勢観覧されていました。

チャペルも良かったですが、14階客室からの展望は富士山も見えずばらしかったです。

新しい藤枝の街の顔として、きっと成功される事と思います。

さて昨日は千葉県に建物の視察で朝早くから出かけていまして、先週のようにこのように会報の次ページまで使うような会長報告を考えてこれませんでした、本日は月始めのお祝い等がたくさんありますので会長報告は短めと言うことでこれで終わりにいたします。ありがとうございました。



出席報告

平野 純也君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
30/41 73.17%	35/41 85.36%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)
 ○青島鉄君 ○大石君 ○落合君 ○島村君
 ○杉山君 ○仲田晃君 ○間野君 池谷君
 大杉君 櫻井君 鈴木邦君

(2)メイクアップ者

青島 鉄男君(榛南) 大石 英典君(榛南)
 杉山 静一君(榛南)

ビジター

大石 啄誌様(榛南)

スマイルBOX

平野 純也君

- ・誕生祝いありがとうございました。チャンチャンコが見え始めチョット複雑な感じです。
池ノ谷 敏正君
- ・妻の誕生祝いありがとうございました。クラブよりお祝いを頂くと妻を意識する今日この頃です。
池ノ谷 敏正君
- ・誕生祝いありがとうございました。赤マーク資格2年目に入りますが、まだまだ青マークで頑張ります。
青島 克郎君
- ・夫人誕生ありがとうございます。何十年ぶりかでプレゼントを贈ります。ただし家内の小遣いで支払う予定です。
青島 克郎君
- ・夫人誕生 毎回お花を戴き彼女が一番喜んでおります。
栗原 毅君
- ・結婚記念日 お祝いありがとうございます。
栗原 毅君
- ・妻の誕生祝いありがとうございます。ここへ来るまで忘れていました。家に帰ってからのいい土産話ことができました。ありがとうございます。
土屋 秀夫君
- ・おかげ様で金婚式も越えられこのごろは一日一日を大切に過ごさせて戴いております。本日戴いております。本日はお引きありがとうございます。
小西 啓一君
- ・3/13結婚記念日お祝いありがとうございます。ランチに妻も招待いただきありがとうございます。
松葉 隆夫君
- ・3/7結婚記念日です。結婚記念の祝いありがとうございます。妻も年々たくましくなっています。

きます。ちょっとこわい時もありますがとても感謝しています。 山田 賀昭君

スマイル累計額 160,000円

■ 会員卓話

平 和則君



パラリンピック(英語:Paralympic Games)について
パラリンピックシンボル



皆さんこんにちは。今年はオリンピックイヤーです。良い機会でもありますので、今日は、ここ数年、スポーツとしての競技性の向上により、注目度が高まっている「パラリンピック」についてお話しをいたします。

1. パラリンピック ([英]Paralympic Games) とは

- 1948年にイギリスのストーク・マンデビル病院内で行われた競技大会。戦争で負傷した兵士のリハビリテーションとして『手術よりスポーツを』の理念で実施されたのが原点。4年後から国際大会(ストーク・マンデビル競技大会)となり1976年まで25回開催された。
- 1988年ソウルより正式名称が「パラリンピック」となる。2000年にオリンピック開催都市でパラリンピック開催が正式に義務化され、次回のアテネから同じ組織委員会で運営されるようになった。
- 名称は、パラプレジア(Paraplegia 脊椎損傷等による下半身麻痺者)+オリンピック(Olympic)の造語。日本人が発案したとされ東京大会で「愛称」として初めて使用された。その後、全ての身体障害者及び視覚障害者が対象となり、Parallel(平行な、類似した)とOlympic(オリンピック)で「もう一つのオリンピック」と再解釈するようになった。

- シンボルマークは人間の最も大切な3つの構成要素『心』、『肉体』、『魂』を赤・青・緑の三色で表現している。パラリンピックのシンボルマークは1988年ソウルで初めて五輪旗が使用された。その後変更され2004年アテネより現在のものが使用されている。
- パラリンピック賛歌は、フランスの作曲家ティエリ・ダルニスが作曲した『未来への賛歌』。1996年のアトランタから大会旗掲揚・降下の際に演奏されるようになった。

2. 参加国・地域、参加人数の状況

夏季大会	第1回ローマ(1960年)	23カ国	400人
	第12回ロンドン(2012年)	164カ国	4,310人

- 1 ローマとロンドンと比較すると参加国は約7倍、参加者人数は約10倍になり拡大傾向にあることがわかる。日本は第2回東京(1964年)から参加。53人が参加し、メダル個獲得数は9個(金1、銀5、銅3)。金は卓球男子ダブルスである。
- 冬季大会は、第1回(1976年)がエーンシェルドスピーク(スウェーデン)、21カ国、400人が参加。2014年の第11回ソチは45カ国 547人。日本の初参加は1980年第2回ヤイロ(ノルウェー)。日本からは2人が自費で参加した。

3. 各国の『金メダル』獲得数

- ロンドンは、トップが中国の95個、ロシア36個、開催国イギリスが34個と続き、オランダが10個で10位である。日本は5個で24位。上位10カ国で金メダルの64%を占める寡占状態となっている。日本のメダル獲得数・順位はアテネ(17個、10位)、北京(5個、17位)と年々低迷している。
- ソチは開催国のロシアが30個でダントツ。一国で金の40%、銀の40%、銅の30%を獲得している。ドイツ9個、カナダ7個、ウクライナ5個、フランス5個が続き、日本は3個で7位となっている。
- オリンピック同様、金メダルの獲得数が目標となり、勝利至上主義が加速している。
- 日本の目標は、リオが金10個、10位以内。因みに2020年東京は金メダルランキングを3位以内としている。なお、金メダルの獲得目標は明らかにされていない。

4. 公式競技(2016年リオ大会)

- ・リオからカヌーとトライアスロンの2種目が増えた。第1回大会から実施されている種目は、アーチェリー、フェンシング、バスケットボール、水泳、卓球、陸上競技の6競技。余り馴染みがないボッチャは第7回から、障害による区別がない柔道は第8回、ウィルチエアーラグビーはシドニーから実施されている。その他に、ゴールボール、サッカー、シッティングバレーボールなど全23種目が実施される。冬季は、ソチ大会でアイススレッジホッケー、アルペンスキー車いすカーリング、クロスカントリースキー、バイアスロン、アイススレッジスピードレースの6競技が実施された。2020年東京「バトミントン」と「テコンドー」が初めて実施される予定である。
- ・各競技種目は、同じレベルの選手同士で競い合えるようにするために障害の種類、部位、程度に応じてクラス分が行われている。陸上競技であれば「視覚障害」、「四肢不自由」、「知的障害」などに大別される。さらに障害の軽重により種目ごとに階級化されている。
- ・クラス分けがあるため、100mの金メダルは男女合わせて10個以上にもなる。メダルの価値を上げるためには階級の統廃合が必要。「競技の公平性」と「メダルの価値」をどう考えるか難しい課題となっている。

5. 報道・メディアの動き

- ・ロンドンでは公共放送のチャンネル4が全競技を生中継した。また、事前のプロモーションで競技解説や選手紹介等を行ったことが大会を成功に導いた一要因と言われている。
- ・日本では、アトランタで車いすマラソン男女ともに銀メダルを獲得したが殆ど報道されなかった。1998年長野でNHKのBS放送が中継を実施。スター選手(土田和歌子、アイススレッジ)の出現もあり報道の流れが大きく変化した。2000年以降、プロ選手(国枝慎吾)の活躍、海外マラソン車イスの部での優勝もあり、一般紙で「スポーツの結果」として報道されるようになった。
- ・2008年以降、NHKがパラリンピックとオリンピック報道に同じテーマ曲の使用を開始した。
- ・ロンドンではYahooがインターネットに「スポーツ」としてのサイトを設置した。

- ・リオは、NHKが開会式と競技ハイライトを放送、スカパーは全競技を生中継する予定である。

6. 日本はスポーツ後進国か?

- ・日本の選手は先進国の選手から、尊敬・同情されている。予算やサポートに圧倒的な差がある中で日本選手団が他国に負けない成績をだしていることがその理由である。
- ・スポーツ先進国とは、国民全体がスポーツから利益を享受できる環境が構築されている国。すなわち、健常者と障害者の区別なく「スポーツを楽しみやすい国」である。
- ・アスリートの強化、発展・育成、社会浸透、資金等の優れている国はブラジル、イギリス、アメリカ、オーストラリア、そしてお隣の韓国と言われている。
- ・日本の障害者アスリートは、NTC(JOC運営)やJISS(文科省所管)の施設を自由に使えない。
- ・JPC加盟の61団体はどの団体も財政難。殆どが専従スタッフを置かずボランティアが運営。
- ・日本の民放放送は「障害者スポーツは視聴率が取れない(需要がない)」と考えている。

7. パラリンピックの今後は

- ・「どうして未だパラリンピックがあるのに、閉会式をやるの?」との疑問、「パラリンピックの競技もオリンピックの競技に組み入れてやればいいのに!」との声がある。理想形はパラリンピックとオリンピックが一つになること。
- ・世界は一步步確実にその理想に向かって動いている。その理由は、両者の接近(オリンピックと同時開催。テニスの4大会には車いすの部が設置、全米陸上選手権には障害者種目がある)がある。次に競技レベルの向上(競技器具の進歩、トレーニング方法の改善など。両足義足ランナーのオスカー・ピストリウス(南ア)、片足のレスラーのアンソニー・ロブレス(アメリカ)などの活躍)が上げられる。そしてパラリンピックを国威発揚の手段として力を入れている国の増加も理由の一つである。
- ・日本もここ数年で「福祉」から「体育・スポーツ」への動きが加速している。2014年にパラリンピックが厚労省から文科省の所管に変更され、2015年には新たにスポーツ庁が設置された。

8. リオで活躍が期待される選手・競技の紹介

国枝慎吾(車いすテニス):1年間にグランドスラム4大会全て優勝。世界ランキング1位。

鈴木孝幸(平泳):浜松出身。先天性の四肢欠損。北京で金を獲得(50m平泳ぎ)

木村敬一(水泳):先天性の全盲。ロンドンで銀を獲得。(100m平泳ぎ)

土田和歌子(マラソン):長野スレッジスキーで金2、銀2を獲得。1996年から陸上に転向、アテネ5000mで金。先週の2016年東京マラソンで優勝。

中川大輔(陸上):知的障害。2015年ドーハIPC陸上世界選手権5000mで金。

佐藤友祈(陸上):2015年ドーハIPC陸上世界選手権400m(車いす)で金。

高桑早生(陸上):義足のランナー。ロンドンで100mと200mで入賞。

山本篤(陸上):義足のランナー。北京で銀(走り幅跳び)。2014年アジアパラ競技大会100mで二連覇達成。クラスT42の100m、200m、400m、走り幅跳びの日本記録、アジア記録ホルダー。

ウィルチェアーラグビー:2015年アジア・オセアニアチャンピオン。世界ランキング3位。

パラゴールボール(女子):2015年アジア・パシフィック選手権チャンピオン。

最期になりますが、ロンドンのパラリンピックは大成功を収めました。2020年には間違いなく東京が、日本が世界から問われます。関係者の皆さんはそこに向かって大変な努力をされると思いますが、障害者スポーツに接する機会がない我々(私)にもできることがあります。それは「競技を見る」ことです。競技を見て、感動し、共感すること、そうすることがパラリンピックを理解する第一歩に繋がるのではないのでしょうか。8月から始まるリオの大会が楽しみです。

結婚記念日

おめでとうございます



<江崎ご夫妻>



<松葉ご夫妻>



<小西ご夫妻>

(担当/荒井君)